

No.23	踏み出し		
氏名	隅田 雪乃	生命科学部	3回生
1. 出願時のテーマ・目標を具体的に記述してください。			
「食品ロス問題を、コンポストの普及による、資源循環と地域住民の関心拡大によって解決します。」 食品廃棄物の処理において、環境に負荷のかかる処理方法であるという課題に対して、生ゴミなどの有機物を微生物の働きで分解・発酵するコンポストを地域単位で広げることによってアプローチします。立命館大学の食堂で発生する食品残渣をキャンパス内で堆肥化し、生成した堆肥を近隣の農家さんに提供、育った野菜を大学内で販売し、生ゴミを地域で資源として循環させます。			
2. 上述のテーマ・目標を実現するために実施した計画を具体的に記述してください。			
環境問題や食品ロス問題に対して幅広い知識の習得を行ってきました。具体的な方法としては、オンラインイベントの参加や参考文献による学習、教授へのインタビュー、専門家の方へのインタビューを行ってきました。 生協の食堂統括の方へプロジェクトを何度かご相談させていただき、生協としてもこのプロジェクトに協力していただけることになりました。7月には、段ボールコンポストの講習会への参加、滋賀県甲賀市の堆肥化施設の見学に伺いました。草津市の資源循環推進課の方や、立命館大学の地域連携課の方との関係性づくりを行いました。いろんな方にプロジェクトの壁打ちをさせていただく中でモデルがブラッシュアップされていき、持続可能な仕組み作りへと現在進行形で進化させています！ 年末には、滋賀県の複数の農家さんへのヒアリングを行い堆肥のニーズ調査を行いました。年明けには、アドバイザーとして連携させていただいているサーキュラーエコノミー研究家の安居昭博さん、三鷹市完熟堆肥農園経営者の鴨志田純さんをお招きした「資源循環の視点からみるこれからの社会」というタイトルのオンラインイベントを開催し、全国から70名近くの方にご参加いただきました。現在、朝日新聞の主催する大学SDGs ACTION! AWARDS2021というアイデアコンテストに現在参加させていただいて、3/5の最終選考会に出場が決まりました。 現在は、地域連携課との連携を進めていて、キャンパス内における堆肥舎建設の計画を進めています。			
5. 今回（今年度）の取り組みについて、今後の活動展開と展望を記述してください。			
今回の活動に引き続き取り組みます。4月までに生ゴミを堆肥化するために堆肥舎の設立、その後に堆肥化・野菜の生育を行い、地域での販売を促進していきます。堆肥化が安定してきたら、大学周辺の飲食店さんと連携し、飲食店で発生する生ゴミも一緒に堆肥化できるような仕組みも仕掛けていきます。堆肥化の作業や農作業は、地域の方や学生と協力して行い地域の繋がりを促進していきます。 4月から、学生団体もしくはサークルを立ち上げ、農業や食や環境問題に携わりたいと考えている学生の活動できる機会を創り出します。 また今後は、衣笠キャンパスのきぬがさ農園Kreisというサークルとの連携を行い、BKCだけでなく衣笠キャンパスにおいても生ゴミの資源循環の仕組み作りを進めていきます。 年内に立命館大学を中心とする資源循環モデルが確立した後は、他大学や企業の食堂へのモデルの転用を試みます！ 地域における資源循環のモデルを広げていくことによって、生ゴミ処理の常識を変えていきたいと考えています！！			
大学生生活最後の1年を、この活動に捧げるつもりです🌱			
6. 今回（今年度）の取り組みは、今後の学びや進路にどのように影響しますか。			
大学4年次は研究室配属によって研究に取り組むのですが、食品残渣をもとにした堆肥開発の研究に携わることが決まりました。自分の研究と現在行っている活動を今後も結びつけていきます。			
また、卒業後もこの活動に携わりたいと考えていて、後輩に学生団体として立命館大学での活動を引き継いだ後は、外部から大学内の仕組みにも関わりつつ、他の地域への資源循環モデルの展開させていくことに挑戦してみようつもりです。 そのため、現在の活動を両立できるような企業に就職しようと考えています。また、さまざまなステークホルダーを組み合わせ社会課題にアプローチできるようなイノベーションアイデアを生み出すことに挑戦してみたいと考えていて、そのような業務ができる企業への就職を現在は考えています。			
7. 今回（今年度）の活動が周囲に与えた影響（社会・周囲）への貢献・還元の点で記述してください。			
まだモデルが確立されていないので、私たちの活動がどれくらい社会に影響を及ぼしたのか推し量ることはできませんが、活動を広げていく中でモデルに共感していただく機会が多く、「コンポスト」の概念や、資源循環の観点から社会を見るきっかけを多くの方に提供してきたと思います。 周囲の人に環境問題はゴミ処理問題の問題提起をすることができ、それらの社会課題を自分事にとらえられるような影響を与えることができています。 また、メンバーになってくれた他の3人には、「環境問題に対してなにかしたい」という思いを行動に起こす機会を一緒に創り出せていて、大学生活における大きな挑戦となるのではないかと考えています。			

3. 個人の成長の軌跡3-1. 取り組みの過程でどのようなことがあったのか、グラフを作成してください。	
採用前 採用 現在 コロナ禍で思うように動けない中、やりたいことが見つかり、この奨学金によってアイデアを実現させる可能性を感じる アイデアを認めてもらえたことにより自信と責任感がつく。実現させたい思いが強まりました 生協の方、環境活動家の方々、農家さんとの出会い。いろんな人に関わっていたことになる。アイデアをいろんな人を知ってもらい、実現させたいという覚悟ができました インターンで多忙に。活動にあまり時間がさげなくなる 活動メンバーが2人から4人にふえる！代表としてとても気が引き締まりました スケジュールを見直し、ロードマップを作成。見通しが見えたことでメンバーのモチベが向上！ 地域連携課との連携が決まる！ 朝日新聞のアイデアコンテストで最終選考に残る！ オンラインイベントの開催。全国から70名の方が参加。活動を多くの人に知ってもらい、応援してもらうことでメンバーのモチベも向上し、結果を残したいと思うようになる	
3-2. グラフで書いた☆（個人がもっとも成長したと思うポイント）では、その過程で学んだこと、気づいたことについて具体的に書いてください。	
アドバイザーとしてかわってくださっている環境活動家の方2名をお招きしたオンラインイベントを開催したのですが、企画段階や当日の運営でメンバーが主体的に取り組むことができたことによって、メンバーのチームへの帰属意識が高まったように感じます。イベント自体を成功させ、多くの方からプロジェクトを応援する声をいただいたことから活動に対して自信が身に付き、自分自身はもちろんメンバー全体としてもモチベーションが向上しました。このことから、メンバーのモチベーションがチームとしての活動にも反映することに気づき、メンバーの存在の大切さを学びました。そして、自分自身の思いを実現させることだけでなく、チームとしてどうありたいかを大事にする必要性を感じました。 また、ロードマップを再度作成したことによりこの活動を今後どうしていきたいかを可視化することができ自分自身の思考の整理に不仅能够だけでなく、チームとしての方向性や今後の活動の見通しができました。方向性を決め期限付きの目標を持ちそれをチームで共有することの重要性に気がつくことができました。	
3-3. “今回（今年度）の取り組み”と“正課の学びや取り組み”は、どのような関連や影響（相互作用）がありましたか？	
モデルをいろんな方に説明・相談させていただく中で、生命科学部の学習領域である土壌や微生物の知識が机上の学習以外の方法で身に付きました。自ら思いを持って行動していく中で身につく知識は、座学よりもより深くインプットされたように感じます。 生命科学部で土壌の研究をされている久保教授にモデルのご相談をさせていただいたことがきっかけで、アカデミックな視点から事業モデルをよりよいものにしたいという思いをもつようになり、この活動がきっかけとなって久保教授の研究室への配属が決まりました🌱 別のメンバーで、食マネジメント学部の子がいるのですが、このメンバーはこの活動に貢献するためサーキュラーエコノミーを学習できるゼミの配属を希望し、私自身は土壌や微生物の学習ができる研究室に所属になりました。正課の学習を活かす場としてこの資源循環の活動を活用できる環境に身を置かせていただけることになり、自分たちの学習をアウトプットできる機会として、今後も活動を発展していければと考えています。	
4. 本奨学金を受給したことで、以下の項目についてどのような影響を与えたか5段階で評価してください。（該当ナンバーに○） また、併せて評価の理由も書いてください。 評価例：【 1（達成できなかった） ← 3（どちらともいえない） → 5（達成できた） 】	
① 目標の達成度	4
<理由> コロナの影響によってアルバイトがなかなかできない状況下であり、経済的に厳しい中で、活動資金には困らず活動に集中させていただくことができたから。	
② 計画の達成度	3
<理由> 当初の予定では、2020年の年内に資源循環のモデルが完成する計画をたてていたのですが、コロナの影響を受け思うように動けなかったり、さまざまなステークホルダーの方と関わる中でモデルのブラッシュアップを行っていきよりよいモデルを構築することに時間を費やしたために、当初の計画から大幅な変更があり、循環モデルの完成予定を遅らせることになったため。	
③ 取り組みを通じた自己成長	5
<理由> 自分の思いを発信する力、思いに共感してくださった人を巻き込む力がとても身に付いたように感じます。 課題の本質はなにか？持続可能な仕組みにするにはどうすればよいのか？といった課題発見力や事業づくりにおける思考力が向上しました。 また、メンバーが4人に増えたことからチームのみんなが主体的に取り組めるような組織の雰囲気づくりに対しても、試行錯誤を重ねながらチームマネジメント力を身に付けていけているように感じます。	
10. 今年度の取り組みを通じて最も身についたと思う力について、具体的に記載してください。9の設問で回答した力でも、それ以外でも構いません。	
① 身についた力	自分の思いを発信する力、人を巻き込む力、推進力
② ①で記述した力について具体的に説明してください 自分がどういっきっかけでどのようなことを考えているのか人に伝えるのが上達したように感じます。また、一緒にやりたいと思ってもらう提案の仕方ができたり、思いに共感してもらったうえで応援していただけるようになりました。	
③ なぜその力を身につけることが出来たのか、成長を手助け・促進させた要因を記載してください 自分がどういっ思いや考えを持っていて活動に取り組んでいるのか周囲の人に話す機会が多く、発信していく中で自分に自信がついてきたように感じます。また、かけ離れたさまざまな立場の方とお話させていただく中で、既存のアイデアをかけ合わせたり、コラボアイデアが思いいついたり、発想の幅が広がったことが原因として考えられます。 推進力は、このプロジェクトに対して覚悟をもてるようになったことで身に着けることができました。	